

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆企業の配当、過去最高18兆円 NISA利用の個人に恩恵

・上場企業が配当を増やす動きが広がっている。2025年3月期は期初時点から353社が予想を引き上げ、配当総額は約18兆円と4年連続で過去最高となる見通し。企業に資本効率改善の要請が強まっていることが背景にある。新しい少額投資非課税制度(NISA)を使って投資する個人に恩恵となる。

◆1月の消費者心理、判断を下方修正 2カ月連続低下

・内閣府が発表した2025年1月の消費動向調査で消費者態度指数(2人以上の世帯、季節調整値)は前月から1.0ポイント低下し、35.2だった。2カ月連続で低下。基調判断は「足踏みがみられる」に下方修正。指数を構成する4項目のすべての項目が前月から低下。「暮らし向き」はマイナス1.9と、24年12月からマイナス幅が拡大した。

◆28年度の電力確保に1.8兆円、平均単価は過去最高に

・電力広域的運営推進機関は電力小売りなどが4年後の電力を確保するため発電所への投資費用を負担する容量市場について入札結果を公表。2028年度の負担は総額1兆8506億円で、1キロワットあたりの平均単価は約1.1万円。平均単価が初めて1万円台に達した。調達量は約1%減ったが、約定総額は4割上昇した。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆合板在庫7%減 24年12月末、値上げ前の駆け込みで

・農林水産省の合板統計によると、住宅の壁や床に使う国産針葉樹合板の2024年12月末の在庫量は前月比7%減の17万3415立方メートル。減少は3カ月連続。主要メーカーが25年1月以降の値上げを表明し、流通会社やプレカット(事前加工)会社の駆け込み需要が発生。アパート向けなどで荷動きが改善しているという。

◆Amazon、国内の再生エネ調達容量 24年は前年比2倍に

・アマゾンジャパンは2024年末時点で同社が調達する再生可能エネルギー発電設備の総容量が23年末比2倍の211メガワットになったと発表。太陽光発電などの電力開発会社と購入契約を複数結んだ。データセンターや物流施設向けの国内の電力消費が増えるなか、再生エネの調達拡大を急ぐ。「コーポレートPPA」を使う。

◆大成建設、29年までに全物件ゼロエネ 完成後も省エネ

・大成建設は2029年までに、設計から工事まで手掛ける新築ビルの全てを環境に配慮した「ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)」にする。電力消費量やビルに付けた太陽光パネルでの発電量を管理し、ビル完成後にさらなる省エネを提案する。建築物の脱炭素を先取りし、既存ビルをZEBに改修する提案も本格化する。

《 注目商品 》

■ハウステック 1坪サイズのサウナ+シャワールーム

・サウナとシャワールームを組み合わせた「Lillä Sauna(リラサウナ)」を発売。サウナとシャワールームを1坪サイズのユニットに。システムバスルーム工法のプライベートサウナ。サウナとシャワールームがつながり、サウナでかいた汗をすぐにシャワーで流すことができる。



■パモウナ、食器棚「RUシリーズ」

・部屋のテイストに合わせて、ウォールナット、シルキーナット、ラスターベージュ、セラミカネロの4色の色柄から選べるデザイン性に優れた食器棚。必要な機能を1台にまとめたボックススタンダードタイプで、収納効率と使い心地のよさを実現。



■フクビ化学工業、屋外ベンチ「Fandaline(ファンダライン)」

・木粉と樹脂を組み合わせた再生木材「プラスッド」を主素材とし、雨ざらしで利用できる耐久性を備えた屋外家具ブランド。「まちってもっとたのしいはずだ」をコンセプトとし、普遍的でやさしいデザインが特徴。5種類10プロダクトを展開。このたび3商品を追加。

